# 第1章 解決志向ブリーフセラピー .......

解決志向ブリーフセラピーの成り立ち 21

家族療法から生まれた心理療法/他の心理療法とどう違うのか

ダイレクトに「解決」を目指す

解決志向ブリーフセラピーのエッセンス 26

小話をひとつ ―― 穴に落ちた男/解決像を知る/原因追究は必要ない

変化は必ず起きる/リソース(資源)が必要/専門家の役割

専門家が解決するのではない/困っている本人が解決の専門家/「無知」

の姿勢の大切さ

原因」「問題」「解決」の関係 35

原因が消えても問題は消えないことがある/直接解決を考える

問題の存続・消滅とは異なる次元にある解決/問題はわからなくても解決はある

障害はあっても充実した人生を過ごす/人間の知恵にみる解決方法

解決志向ブリーフセラピーの進め方 48

練り上げられたゴール/質問の活用

### 第2章 漢方医学と精神科医療 67

日本の精神科疾患治療の歴史

古代から中世 ―― 医療と宗教が未分化な時代

近代以後――医学が担い、医師中心から多職種連携へ 近世 (江戸時代)——医療と宗教が分化した時代

精神科と漢方は親和性がある 76

石を撫でると病気が治る?/ミルトン・エリクソン顔負けの精神療法

「心身一如」の医学

81

「心身一如」の四つの側面/こころと体は分けて考えられない

漢方治療の「心身一如」/精神科治療と「心身一如」 こころと体は互いに反映し合う/こころが体を変化させる/体がこころを変化させる

### 第3章 精神科で漢方はどう役立つか 105

漢方薬の効果と有用性 107

漢方薬は「いのち」に作用する/漢方薬にも即効性がある 漢方薬はこころと体の症状に同時に効く/抗うつ薬は体に作用する

服薬抵抗の軽減 精神科の薬を嫌がる患者さん/病識のない患者さんへの対応/漢方薬への抵抗は少ない 112

精神科薬物の減量 120

漢方薬の活用で服薬抵抗をバイパスする

漢方薬の活用法 ベンゾジアゼピン系薬物の特徴/ベンゾジアゼピン以外の睡眠薬・抗不安薬

西洋薬の副作用軽減 124

良好な治療関係の構築

126

消化器症状に効く漢方薬 /錐体外路症状に効く漢方薬/抗コリン作用に効く漢方薬

薬の「飲み心地」に注目する ジョイニングまたはペーシング/薬物治療を通じてのラポール形成

132

### 

半夏厚朴湯 139

気の滞りを改善する/患者さんにはこう説明する/パニック障害への応用

吐き気による不登校のケース

柴胡加竜骨牡蛎湯

151

息子の家庭内暴力でPTSDになったケース/円形脱毛症の中学生のケース ストレスが体の症状となって出るとき/私のビギナーズラック/希死念慮を改善する

四逆散 164

職場のストレスからうつ状態を呈したケース/双極性障害の男性会社員のケース ストレスがあっても表現できないとき/胸脇苦満と腹皮拘急/ナラティブ・ベイスト漢方

抑肝散·抑肝散加陳皮半夏 177

怒りがあるときの処方/うつ状態の高齢者のケース/パニック発作のケース

患者さんが教えてくれた棗の効果/悲しみ・抑うつ・不安が強いとき

不登校の中学生のケース

桂枝加芍薬湯

194

お腹の症状に効く/神田橋処方(桂枝加芍薬湯+四物湯) /ストレス性の下痢のケース

フラッシュバックと恐怖心があるケース

# 

レジリエンスとは何か 211

レジリエンスの働きを邪魔しない 人はみなレジリエンスを持つ/治療が人を治すわけではない/言葉の力

解決志向からみたレジリエンス 220

解決志向ブリーフセラピーの原則/治療者と患者の関係性/関係性の変化とレジリエンス 精神療法としての薬物療法/信頼と期待を呼び起こす/幼児のカウンセリングって?

レジリエンスの作用点 242

「こころ」という作用点/「体」という作用点/どの作用点に働きかけるか/健康生成論

レジリエンスを引き出すもの

253

期待と希望が果たす役割/回復を語るナラティブ 抑うつ+下痢症状のケース(解決志向)/更年期による痒みのケース(漢方治療

レジリエンスに働きかけ、回復を促進するもの

章 265 精神科治療の厳しい現実との出合い/ブリーフセラピーとの出合い/精神科での漢方活用

いのちのレジリエンス/穴に落ちた男の小話再考/おわりに

終

column

「こころ」の誕生 102 解決志向による治療例

61

参考文献

(1)

パニック発作のセルフコントロール ―― 体から入る心理療法

205